

北海道・東北

対人関係を築くのが何らかの原因で困難な人と 共に過ごす時間と場所を提供する

北海道

特定非営利活動法人 訪問型フリースクール漂流教室

支援対象 就学前～20代の若者

支援方法 メンタルフレンドとしての訪問・フリースペース
ネットを利用した通信型支援

スタッフ数 正規職員：3名、非正規職員：0名、
登録ボランティア：40名

実施団体 特定非営利活動法人
訪問型フリースクール漂流教室



住所：〒064-0808 北海道札幌市中央区南8条西2丁目
市民活動プラザ星園 401
TEL: 050-3544-6448 FAX: 050-3544-6448
e-mail: hyouryu@utopia.ocn.ne.jp
URL: hyouryu.com

成り立ちと活動の全体像

1999年ころ、不登校の児童生徒数約13万人の内フリースクールを利用しているのが1万人以下であると知り、学習や体験活動の場を全国的に増やすべきであると考えた。昨今では「社会的起業」という言葉で語られる走りのようなことをしていた。資金と広報の事情から、拠点を設けずアウトリーチを事業の中核とした。

利用者の年齢を学齢期に留めず訪問をしている中で、「不登校」が問題なのではなく、そこに至る様々な個人的社会的要因があること・対人関係を構築することが難しい人がアウトリーチでは多いこと・年齢が上がるにつれ、居場所がなくなることがわかってきた。そこで、居場所兼事務所である「漂着教室」を開設した。

こうした活動を行うにあたり、フリースクールを中心とした民間教育団体のみならず、発達障害や精神疾患にも対応した医療機関や当

事者団体、市民活動団体等と様々な形で連携しながら運営を行ってきた。現在は札幌を中心として近郊市町にも利用者がいる。

ある日の活動風景



沿革

- 平成 14 年 6 月 任意団体として開設。
訪問事業開始。
- 平成 18 年 5 月 フリースペース「漂着
教室」開設。居場所事
業開始。
- 平成 22 年 9 月 北海道より「子どもの
健全育成支援」モデル
事業受託
- 平成 23 年 8 月 法人格取得

主な活動

メンタルフレンドとしての訪問

週一回一時間、メンタルフレンドによる、対人関係構築の訪問型支援

フリースペース

- ・社会参加を目指す若者を対象にフリースペース「漂着教室」を利用した、異年齢少人数グループ内での対人関係構築訓練と各種体験活動（火～金 午前9時～午後8時）
- ・20代の若者中心のボランティアスタッフに対する、事業を通じた社会参加トレーニングの機会創出

ネットを利用した通信型支援

通信制高校提出課題に対する学習支援

子どもの健全育成支援事業

後志地区「子どもの健全育成支援事業」を通じた、生活保護世帯の小～高校生への学習及び居場所・訪問支援



ある日の訪問風景

毎週行っている訪問先へ、いつも通りの時間に到着する。「寒くなったね」「風邪ひいた？少し鼻声だね」としばらく雑談していると、利用者がスタッフが来るまで描いていた絵を持って来て見せてくれた。その絵について質問すると、最近のお気に入りのアニメのキャラクターだと教えてくれた。

そのアニメの詳しいストーリーを聞いた後、オープニングの曲もお勧めだと教えてくれたので、オープニングの動画を一緒に観た。その後、その曲を流しつつ、スタッフはそのアニメの中で気に入ったキャラクターを模写し、利用者は先程描いていた絵の続きを描き始めた。時折、「ここってどうなっているんだろう？」とスタッフが利用者に質問したり、「この部分をこうやったらどうだろうか。」と利用者がスタッフに相談しながら、二人で別々の絵を描き進める。訪問終了の時間になり、スタッフが「来週はまた〇〇日に来るね。」と告げ、訪問が終わる。何かを変えることを目標に訪問をしているわけではない。利用者は自然に変わっていく。メンタルフレンドとしての訪問は、「一緒に時間を共有する」または「関係を築いていく」ということを目標に、訪問を続けている。

誰もがいきいきと暮らすことのできる地域づくり

北海道

特定非営利活動法人 生活支援ネット地域ワークサロン

支援対象: 中学生

支援方法: 障がい児通所支援・居場所づくり・生活保護
世帯が中心の学習支援

スタッフ数: 174 名

実施団体: 特定非営利活動法人 地域生活支援ネット
ワークサロン

代表者: 代表理事 高橋 信也



住所: 〒085-0824 北海道釧路市柏木町 2 番 8 号
TEL: 0154-44-5527 FAX: 0154-44-5528
e-mail: info@n-salon.org
URL: <http://n-salon.org/>

成り立ちと活動の全体像

1993 年に障がい児の親の集まりであった「マザーグースの会」が発足。当法人の設立中心メンバーがそこで出会う。1998 年に釧路圏の育児・療育ガイドブック「みんなのゴキゲン子育て」刊行、1999 年に「マザーグースの会」が「療育サロン」を開設したことで、多様な人が集い、ネットワークづくりをすることで、エンパワーメントされていくことを感じる。

事業として様々な生きづらさを抱えている人を支えていくため法人格を取得することとし、2000 年 12 月に法人格を取得した。

ある日の活動風景

今日は 7 期スクラム(学習支援事業)・夏休みの陣最終日。

(ここからは別のスタッフのコメント)

初めまして。スクラム卒業生の A です。

毎年スクラムをチューター(通ってくる子ども以外の大人の通称)として参加するとそれぞれの期

によって空気が違ってとても新鮮な気持ちで始められて楽しいです。

今日は夏休みスクラム最終日!!というわけで 7 期の感想を。

7 期は今まで経験したことないくらいみんなが集中していて自分が 3 期の頃と比べると・・・(笑)でも雰囲気もよくてみんな楽しそうでなによりです。

それに 6 期生も沢山来てくれて助かりました。

今日の感想で言うと個人的になりますがライブが大変でした・・・

中学生が楽しんでくれていれば幸いです。

初めてコーディネーターをやってこんなにも大変だと思わなかった・・・

スタッフはこれを毎日やってたと思うと素直に尊敬します。

でもなんだかんだ大変だったけどすごく楽しかったし、またこんな機会があればやりたいな。

(別スタッフのコメント、ここまで)

沿革

- 平成 12 年 12 月 NPO 法人格取得
平成 15 年 4 月 障がい者支援費制度の導入に伴い、事業を再編
平成 18 年 10 月 障がい者自立支援法成立に伴い、事業を再編
平成 20 年 8 月 コミュニティハウス 冬月荘オープン
平成 21 年 1 月 高校進学支援事業「Zっと！Scrum」スタート
平成 22 年 5 月 法人本部を現在の場所に移転
平成 22 年 10 月 子どもの健全育成支援事業により、釧路管内の学習支援に取り組む

主な活動

地域で誰もがいきいきと暮らすことができるように、生きづらさを抱えた当事者やその家族、支援者が集うことのできるようなサロンなどの場所づくり、ネットワークづくりを中心に活動しています。

現在は障がい児者への支援を中心に、分野に捉われず多様な人が関わり、活躍することでエンパワーメントされる事業を展開しております。



印象深いエピソード

今年はウィークリースクラム(放課後の学習支援)をお盆明けからやろうかと。

(夏休みの期間集中の学習支援の)アンケートに目を通してみると、

「勉強がわかってよかった」

「友だちができてよかった」

等、ほうほう、と思ったり

「勉強する時間が足りない」

っていう、ホントに？ホントに言ってる？っていうものまで。

内容はどうあれ、来て良かったと思ってもらえたならいいな、と思います。

今年度は中学生の声をしっかり聞きたいね、というのがテーマの一つ。

ですんで、夏休み以降もあーでもない、こーでもない、しながら続けていく所存。

かつ中学生から大人まで、参加して良かったね、となるなら、なお良いな、と。

そうなりそうな兆しがありそうですし。

(場をコーディネートすること担当の)日替わり制が奏功したためか、A、B、大学生を筆頭に若い人が積極的だったのが印象的。

(もちろん他のチューターもですけど)

高校生も場を盛り上げてくれて。

色んな人が活躍してくれて、周りが協力できて・・・が続くといいなと思います。

函館圏の全ての子ども達が希望通りの 教育を受けられる環境を作り出す

北海道

函館圏フリースクール すまいる

支援対象: 小学生～高校生年代 保護者

支援方法: 地域における子どもやその家族の居場所・学習支援の提供 相談助言

スタッフ数: 15名

実施団体: 函館圏フリースクール すまいる

代表者: 庄司 証



住所: 〒040-0064 北海道函館市大手町9-13
TEL: 080-4349-6463 FAX: 020-4665-2265
e-mail: akashi.shoji@gmail.com
URL: <http://hakodate-smile.jimdo.com/>

成り立ちと活動の全体像

函館圏における不登校は300人程度存在しているが、これまでは適応指導教室しか選択肢がなかった。

また、地域として不登校等に対するネガティブなイメージが根強く、子ども達が気軽に利用できる支援がないため、生活や学習面での環境を早急に整備する必要があった。

そのため、居場所を確保することを目的として、フリースクールを設立してフリースペース活動を開始。

今後はさらに様々な体験や学習を通して、積極的総合的に働きかけることによって、「学ぶ喜び」を感じてもらい、自立に向けての歩みをサポートする。

フリースペース（居場所支援）

月曜日から木曜日の10時から3時まで大手町で、ボランティアスタッフ数名が対応している。

「いつきても、いつかえっても、何をしても、な

にもしなくても」を合い言葉に、子どもの自主性を尊重する活動はいつもかわらない。

例年、15名程度の利用登録があり、毎日2~4人の利用者がいる。子どもにとっては、慣れない場所で、何もすることが決まっていないということは、それだけでストレスがかかる大きな問題になっている。

最初は、持ってきたゲームを取り出す。それから、スタッフと会話をする。そこから自分でどう過ごすか考えを巡らせ始める。ゲームを続けるか、本を読むか、音楽を聴くか、カードで遊ぶか、外に行くか、のんびり過ごすか、勉強するか...

最初は、自分で選択したことが怒られないか、子どもは不安で仕方ない。でも、「それでいい!」と実感できると、それが自己肯定になってくる。笑顔が増えてくる。笑顔が増え、前を向くことができると、自分のやりたいことが見えてくる。そして、やろうと思えてくる。

そんなファーストステップが、フリースペースの役割なのかなと、笑っている子ども達を見ていると感じている。

沿革

- 平成 24 年 4 月 函館圏フリースクール
すまいる発足
- 平成 24 年 9 月 「いじめから命を守る
緊急集会」開催
- 平成 25 年 3 月 大手町教室フリースペ
ース常設
- 平成 25 年 5 月 昴の会・すまいる記念
講演会
- 平成 25 年 9 月 ブックシェアリング函
館（HIF 合同）発足
- 平成 25 年 9 月 道新「地域げんき大賞」

主な活動

- 子どもが主体となるフリースクール事業
- 子どもの希望や意欲に応じた内容の学習指導を行う
- ひきこもり等の訪問サポート事業
- メンタルフレンドとして家庭訪問を行う
- 子どもの居場所づくり事業
- フリースペースとして月～木曜日の 10 時～15 時開設
- 子どもに対する運動機能や体力向上のための学習活動
- 学習支援やフリースペースで散策や外での活動を行う
- 家族・関係機関・行政・市民・学生の学習と交流を図る活動
- NPO まつり等への参加・委託事業・講演会等実施
- 教育や不登校についての相談・情報提供活動
- 個別相談事業・ニュースレター等発行
- その他の事業

訪問サポート（メンタルフレンド）・学習支援

訪問サポートは、主にメンタルフレンドとして、スタッフが家庭訪問をする。それでも、「いつ利用しても、何をしても、何もしなくても良い」スタンスは変わらない。

年々少しずつ訪問サポート利用が定着してきた。まずは寄り添って話を聞いてくれる人を求めている、と感じている。だから、メンタルフレンドは利用者を全面的に受け入れることから始める。そして、「感じていることをもっと知りたい」と思いながら訪問し、ゆっくり関係を築いていく。

1 日のうち 1 時間誰かと一緒にいることを意識するだけでも生活の中では大きな変化になる。会話やゲームや外出の中で、お互い「わかり合う」楽しさを味わって過ごしたいと思って活動している。

学習支援は、希望する利用者にあわせて時間や場所、内容を決定して行っている。利用の多くは高

卒認定指導、基礎学習を希望していた。重要なのは、あくまで本人の意志によって開始すること。わからなかったり、なかなか結果に結びつかず、時に悩むこともある子もいるが、学習意欲は高く、たくさん努力することができている。目標に向かう決意の強さを感じている。



人と地域を耕す

～生活困窮者支援を通じた地域づくり～

北海道

一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会

支援対象: 生活困窮者及び生活保護受給者

支援方法: 電話による相談、来所による相談、関係機関等への同行支援

スタッフ数: 正職員 9 名 非正規職員 5 名

実施団体: 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会

代表者: 小和田 力



住所: 〒085-0015 北海道釧路市北大通 12 - 1 - 14
TEL: 0154-25-0288 FAX: 0154-25-0288
e-mail: sbcc@kuh.biglobe.ne.jp
URL: <http://www.sbcc946.com/>

成り立ちと活動の全体像

当協議会は、2012年4月に設立された。設立趣旨は「生活保護受給者のペイドワーク開発」である。遡ること2004年、釧路市は生活保護受給世帯自立支援プログラムに取組み、当事者の自尊感情を大事にしながら経済的自立・社会的自立・日常生活自立を目指した。この取組みは地域資源と手を繋ぎながら中間的就労と呼ばれるボランティア活動を導入し、当事者の社会参加を促すというもので「釧路モデル」と呼ばれることとなった。当協議会はこの到達点を共有しつつ、自立支援プログラムの課題の1つであった「ペイドワーク」開発を担うことにした。ペイドワークという物差しで仕事を探するとき、地域の困りごとやニーズに目を向けることに辿り着いている。2013年度からは生活困窮者自立支援法のモデル事業として自立相談支援事業を実施している。

くらしごと(釧路市生活相談センター)取組み

生活困窮者自立支援法は、人が人を支える取組みと言われております。一人一人の尊厳、その回復を基本として当事者の生活をフォーマル、インフォーマルが一緒になって支える生活支援の体系です。相談は「どのような相談も受けとめ繋がる」ことが何より大事であることを学んでいます。大雪のある日、電話が鳴りました。「屋根の庇から雪が氷状になって隣の家に直撃しそうだ。困っている。何とかならないか。」というもの。従来の相談感覚では「ここではありません。業者に。」と言って終わってしまったのかもしれませんが。くらしごとでは早速現場に向かいました。除雪ボランティアを買って出してくれた地域の方とも現地で合流。とても素人作業では難しいことが分かり、担当者がその地域を回ってみると屋根の雪下ろしをしている業者さんがいましたのでお願いしそれは解決に向かいました。大事なことはここからです。その方は高齢で大きな戸建に一人で住み、生活費に困ってはいないが子供は遠くにいて交流も希薄な

沿革

- 平成 24 年 4 月 当協議会設立
平成 24 年 4 月 釧路市より緊急雇用創出推進事業を受託。
平成 25 年 4 月 釧路市より「インターンシップ事業（整網作業）」「釧路市相談支援事業（生活困窮者自立促進支援モデル事業）」を受託
平成 25 年 7 月 厚生労働省・社会福祉推進事業「生活困窮者等への中間的就労（非雇用型）の場のモデル創出事業」を実施
平成 25 年 10 月 北海道より「北海道生活困窮者自立促進支援事業（生活困窮者自立促進支援モデル事業）」を受託
平成 26 年 4 月 北海道より「北海道生活困窮者自立促進支援事業（生活困窮者自立促進支援モデル事業）業務」を受託
釧路市より「釧路市就労準備支援事業（生活困窮者自立促進支援モデル事業）業務」「就労移行型インターンシップ（整網作業）業務」を受託

主な活動

- ・生活相談支援センター
主に生活困窮者を対象に相談窓口を設置。「暮らし」と「しごと」を始めとした困りごとに寄り添い、ご本人の「回復プロセス」を一緒に考えます。
- ・就労準備支援事業
1年以内に就労が見込める方を対象に、就労に必要な生活習慣やコミュニケーション力身に付けるための支援を実施。
- ・漁網の整網作業
- ・健康運動用具（ふまねっと）の製作用業
- ・健康運動（ふまねっと運動）のサポーター養成
- ・釧路市指定ごみ袋の封入作業
担い手不足が深刻な地域産業の担い手育成や生活困窮者の居場所機能を兼ね備えた場として、企業の協力の元に各種作業を実施。

ようだったこと。町内会活動もやられているが雪下ろしなどはどうしてよいか分からなかったこと。身近に相談したり「困った、助けて」と声を上げることが容易ではないのが地域の現実。そのとき新聞の折り込みで「暮らしごと」のチラシ【困ったときは】を読んだのです。ここから繋がりました。寄り添うことも、包括的であることも、生活

困窮者支援の大事なことです。何よりどんな相談も受けとめることからそれは始まるのだと学びました。同時に地域を「助けて」と言える環境にするためには、たまたまチラシを見たということ繋がるだけではなく、民生委員や町内会など身近な地域資源により支える仕組み作りもまた喫緊の課題であることも明らかになる事例でした。



わかる喜びから学ぶ喜びへ

北海道

学校法人 池上学園池上学院高等学校

スタッフ数: 100 名

実施団体: 学校法人池上学園池上学院高等学校

代表者: 理事長 池上 公介



住所: 〒062-0903 北海道札幌市豊平区豊平3条5丁目
1 38

TEL: 011-811-5297 FAX: 011-811-6166

e-mail: yasuyo@ikegamigakuin.sd.jp

URL: [http:// www.ikegamigakuin.ed.jp](http://www.ikegamigakuin.ed.jp)

成り立ちと活動の全体像

約30年前、経営者の都合で放り出された27名の中学浪人生を救うことから「奇跡の大逆転」を生む教育が始まりました。挫折に泣いた生徒一人一人に寄り添い、わかる喜びから学ぶ喜びへと導くのが本校の教育です。本校では、様々な原因で自分本来の良いところに気づかず達成感を持たずに入学してくる生徒たちの良いところに気づき、それを伸ばした結果を出していきます。

さまざまな支援体制により一人一人の 学生生活をサポート

習熟度別の個別指導による基礎学力の向上、資格取得の機会、難関大学受験から就職まで多様な進路への対応など安心できる高校生活を保障することで、卒業率は95%を越えています。また、北海道の子供たちが地元で通えるよう道内各地に学校を設けています。(函館・帯広・北見・釧路・室蘭・旭川・苫小牧)

沿革

- 平成 15 年 12 月 学校法人池上学園池上学院高等学校認可
- 平成 16 年 4 月 学校法人池上学園池上学院高等学校開校
- 平成 17 年 学園前キャンパスを開校
- 平成 21 年 4 月 池上学院グローバルアカデミー専門学校を開校
- 平成 21 年 7 月 池上学院高等学校函館キャンパス(7月)・帯広キャンパス(10月)を開設
- 平成 22 年 8 月 池上学院高等学校北見キャンパス(8月)・室蘭キャンパス(10月)・釧路キャンパス(10月)を開設
- 平成 25 年 7 月 池上学院高等学校苫小牧キャンパスを開設

主な活動

単位制、通信制高等学校。不登校・学力不振・前籍校でうまくいかなかった生徒を受け入れ、個別指導や少人数指導による教育を実践。生徒の個々に応じた学びの場を提供し、能力を開花させることを目指します。

本校の校風と魅力

教師から生徒への一方通行的、平面的な従来の講義式の授業ではなく生徒を主役とした「立体授業」を行っています。学力を伸ばし結果を出すことで生徒は自信を持ち、自信を持つことで相手を思いやる生徒になります。思いやりを持つことで信頼できる友人ができ、楽しい学校生活になります。小学校・中学校と不登校だった生徒が本校では3か年皆勤ということも珍しくない話です。



わたし達はカウンセリングや心理テスト、
音楽療法を通じ、心理的支援を必要とする方々の
社会参加・社会復帰を応援します。

北海道

NPO法人ワークフェア

支援対象: 生活困窮者等世帯の児童、生徒

支援方法: 総合相談、学習支援

スタッフ数: 30名

実施団体: オホーツク相談センターふくろう

代表者: 代表理事 本見研介



住所: 〒090-0000 北見市美芳町5丁目2-13 ライズビル
1階

TEL: 0157-33-3760 FAX: 0157-33-3761

e-mail: workfair@plum.plala.or.jp

URL: [http:// www.librapiano.com](http://www.librapiano.com)

成り立ちと活動の全体像

私たちは、コミュニティーカフェを運営のほか、障がいのある方に働く場、訓練の場を提供するために、就労支援事業所を設立しました。その中で、経済的・精神的に行き詰まり、行き場を失っている事例に遭遇することもあり、働く場の提供だけではなく、より多様な機能を持つ人や機関につなげたいと思うことが増えてきました。また、若者の職業的自立支援をはじめ、生活に困窮しているか困窮していないかにかかわらず就労支援をしてきました。

これらのかかわりの中で、格差社会と貧困の連鎖を身をもって感じ、生活保護世帯の子どもたちに対する学習支援をスタートしました。小学校4年から中学生までの児童・生徒を対象としており、放課後家庭学習の支援として、授業の遅れの解消や高等学校進学へのサポート、そして学習の定着や意欲の向上をめざして活動しています。

学習支援を通じての居場所作り

生活保護世帯の小学生と中学生の学習支援では、1人につき週1~2回、1回1~2時間で支援を行っています。家と学校以外の居場所との意味もこめて、学習スペースへ来所を促し、苦手な科目に取り組んでいます。現時点での参加者については、学習に非常に前向きで進学の意欲もあり、「毎日でも教えてもらいたい」と言われるほどです。

実際に取り組んでみて感じるのは、学習支援を通じての居場所作りです。保護世帯の子どもたちは、自分の置かれている環境を簡単に人に話せるわけではなく、友達を家に呼びたくても環境が整っておらず、なかなか呼ぶことも出来ずにいます。多感な心の奥では、悲しみや諦めが垣間見えることもあります。困った事が起きたとき、気楽に相談できる大人の存在や、家以外でも安心して過ごせる場所、気持ちに寄添い合える仲間の存在が、これからは生きていく子どもたちにとって、大切な支えになると考えています。

今後、支援を進めていく中では、学習意欲が低く、

沿革

- 平成23年 NPO法人ワークフェア設立
平成23年 ミュニティーカフェ「リブラぴあ〜の」開設
平成24年 障害者就労支援事業開始
平成26年11月 オホーツク相談センターふくろう開設
平成26年12月 美好湯の経営開始

主な活動

- ・コミュニティーカフェでは、美味しいコーヒーとピアノの生演奏など、癒しの空間があなたのお越しをお待ちします。ワンコインランチも好評です。各種会議やライブ会場にもご利用ください。
- ・障害者就労支援では、障害をお持ちの方の就労を支援させていただいており、この活動で製造される“ゴボウ茶”は、健康にも良く評判です。
- ・オホーツク若者サポートステーションでは、仕事にうまく結びつかない若者を対象に、就労に向けての支援を中心に活動しています。たくさんのメニューが用意されていますので、一度覗いてみてください。
- ・オホーツク相談センターふくろうでは、生活困窮者の自立支援事業として総合的な相談を基本に、住宅の支援、就労の支援、家計支援、学習支援など、幅広いサービスに結びつけ、お困りごとの解決を目指しています。
- ・学習支援事業では、通いと訪問の方法を用いて放課後の学習を支援し、学力の向上と進学に向けてのお手伝いをいたします。
- ・その他、銭湯の経営など、多角的に地域への貢献を目指す活動を実践しています。

高等学校卒業程度認定試験への学習支援

家からなかなか出ることの出来ない子ども達がいることも想定しています。そのような場合には、こちらから訪問させていただき、少しずつ信頼関係を築きながら、学習する環境を整え、貧困の連鎖を防いでいくように支援していきます。このような関わりを通じて、学習面での支えの他に精神的にも支えていけるような、そんな居場所づくりを目指しています。



当法人が運営している地域若者サポートステーションでは、中退者への学びなおしや高等学校卒業程度認定試験への学習支援を行っています。引きこもりがちであり、昼夜逆転やゲーム依存の傾向がありましたが、マンツーマン形式で、本人の理解度に合わせたところからの支援をはじめました。少しずつ信頼関係を築きながら、時にはグループワークも加え、学習の意欲を高めてきました。これにより、見事希望科目を合格する事ができ、本人も「やればできる」という自信を実感していました。自分の力を信じ、精一杯取り組むことで未来を切り開く事が出来る、この体験の積み重ねが、貧困の連鎖を断ち切っていくものだと感じながら支援しています。

STEP UP (今一步の挑戦)
JOIN HANDS(互いに認め合う人間関係と協同)
GOOD SENSE(高い感性と知性そして懸命な行動)

北海道

特定非営利活動法人
フリースクール札幌自由が丘学園

支援対象: 中学生

支援方法: 不登校児童生徒への学習支援・居場所づくり

スタッフ数: 常勤 5 名

実施団体: 特定非営利活動法人フリースクール札幌自由が丘学園

代表者: 理事長 亀貝 一義



住 所: 〒065-0000 札幌市東区北 8 条東 1 丁目 3 - 10
TEL: 011-743-1267 FAX: 011-743-1268
e-mail: fs@sapporo-jg.com
URL: <http://www.sapporo-jg.com/>

成り立ちと活動の全体像

1980～90 年代の荒れた教育現場を背景に、子どもが伸び伸びと個性を發揮できる「もう一つの学校」をつくらうと当団体は設立されました。当団体は主に不登校の児童生徒が学校に代わる学びの場・居場所として利用する通所施設です。午前中には五教科の学習を中心とした一斉授業や個別学習を、午後は美術や音楽、演劇など自己表現をテーマとした体験的な活動をしています。対象は小学 3 年生から中学 3 年生ですが、現在在籍しているのは中学生が 30 名ほどです。それぞれの学習進度により午前中の授業は 2 クラスに分けておこなっています。また、年間を通してイベント・行事が多いのも特徴です。登山やウォーキングなどの体を動かす活動、集団での協同を目的とした宿泊行事、音楽や演劇の発表といった表現活動など、バリエーションも多彩です。何かしらの傷ついた体験から自信を失ってきた子どもも多いですが、様々な体験活動を通して本来子どもたちが持っている豊かな感性や明るさを發揮するようになります。

ある日の活動風景「北海道を歩こう」

当団体では体を動かす活動も多く取り入れていません。5 月には札幌の真駒内～支笏湖まで 33km を歩く「北海道を歩こう」という一般の大会に参加しました。この日のためにウォーキングの日をつくり歩く練習をしてからのもみましました。完歩できない子もいましたが、好タイムでゴールする子やタイムリミットの時間ギリギリにゴールする子もいました。「足が棒になる」という表現がぴったりとあてはまる程体力を使う行事です。しかし、ゴールでみんなが合流するとお互いのがんばりをたたえ合いながら達成感に満ちた良い笑顔を見せていました。この他にも登山やマラソン、日常では週に 1 度の体育(バスケットボール・フットサル)などで体を動かしています。当初は体力がなくフリースクールに通ってくるのがやっとという子どももいますが、こうした活動に少しずつ参加しながら体力をつけると、次第に表情も明るく活発になっていきます。

沿革

- 平成5年11月 フリースクールのスタート
- 平成14年2月 フリースクール高等部のスタート（通信制高校の技能連携校に）
- 平成15年9月 特定非営利活動法人を取得
- 平成17年4月 文部科学省「不登校対応実践研究事業」の委託を受ける
（平成25年度まで継続）
- 平成21年4月 同グループが株式会社立の通信制高校を開校
（高等部はそちらに移行）
- 平成24年4月 札幌市より「フリースクール等民間施設事業費補助」を受ける

主な活動

- ・五教科の一斉授業を通じての学習
- ・個別学習
- ・美術や音楽などの体験的な学習
- ・宿泊学習や学園祭等、イベント・行事
- ・ソーシャルネットワークを利用した学習
- ・フォーラム開催など不登校理解への啓発活動



普段から読み聞かせの活動をしているフリースクールのボランティアの方にもアドバイスをもらい、自信をつけたところで出前読み聞かせへ。保育園、老人ホーム、障がい者施設などへ出向き、実際に読み聞かせをします。読んだ作品についてリアクションや感想をもらうことで達成感へとつながります。また、時には訪問先の方々から歌や手遊びのお返しがあることも。「また来年も来てね。」という言葉にとっても喜んでいました。

ある日の活動風景「出前読み聞かせ」

毎年、授業の中で紙芝居を制作しています。今年は紙芝居だけでなく人形劇やペープサート（紙の人形劇）にも挑戦しました。ストーリーや人形、絵など全て子どもたちで考えます。グループで話し合い、時には意見を出し合い、時には役割分担をしながら協力し合って作りあげていきます。もちろん読み手も子どもたちです。読む練習をした後は、フリースクールのみんなの前で発表をし、読み方についてのアドバイスをお互いにします。

希望する誰もが働く喜びを

岩手県

特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉館

支援対象: 高校生(在籍) 母のみ

支援方法: アウトリーチ 個別相談 職業準備訓練 職場実習 職場定着支援

スタッフ数: 15名

実施団体: 特定非営利活動法人いわてパノラマ福祉館

代表者: 理事長 高館美保子



住所: 〒020-0841 岩手県盛岡市羽場 14 地割 8-4
TEL: 019-639-8383 FAX: 019-907-0390
e-mail: info@npo-ipf.org
URL: [http:// www.npo.ipf.org](http://www.npo.ipf.org)

成り立ちと活動の全体像

社会的に障害や困難を有する方に対し、就労支援を目的とした事業を行っている。就労や社会参加に対する困り感を抱える方に対し、セミナーや職業生活訓練の参加、約 260 社の協力事業所のもとで行う職場体験や、約 100 に及ぶ支援機関や学校との連携により、地域と共に「希望する誰もが働けること」に取り組んでいる。

支援スタイル・方法

【職場定着支援】

10代男性 通信制高校中退 その後知的障害の診断で療育手帳取得

就労訓練開始

風呂の入り方、シャンプーの方法など身だしなみやコミュニケーションを中心に支援。

明るく人懐こい性格でまわりからかわいがられる。職場体験より就労に至る。

職場定着支援開始

1 ヶ月過ぎたくらいに就労先から臭いと肌の荒れ(アトピー)について相談あり。

家庭状況について改めて聞き取り・支援をする。以下支援内容。

経済的理由から家庭にガスをひいていないため入浴できない。今後もガスをひくつもりはない。支援：アトピーの状態から清潔にすることが必要であることを本人と母親に伝える。近所に公衆浴場を探したが、経済的状况から利用は難しい。公共サービスのシャワーの使用を交渉。

経済的理由からアトピーのための通院ができていない。支援：本人の第1回目の給料が出たら病院に行くことを本人と母親に伝える。必要があれば病院への同行をすることを伝えるが、その後すぐに通院を始める。

煮炊きはカセットコンロを使用しているが、ほとんどスーパーの総菜やインスタントラーメンで済ませる。支援：母親より早く帰ることから、炊事について本人ができるように支援。

沿革

平成 16 年 7 月	任意団体いわてパノ ラマ福祉館活動開始
平成 19 年 7 月	特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉 館（法人格取得）
平成 18 年 9 月	障がい者の態様に 応じた多様な委託訓練 （岩手県委託）h24 迄
平成 22 年 4 月	ニート就職支援事業 （盛岡市委託）h23 迄
平成 24 年 4 月	社会適応困難者就職 準備支援事業（盛岡 市委託）
平成 25 年 4 月	いわて若者ステップ アップ支援事業（岩 手県委託）
平成 25 年 10 月	障害者福祉サービス 就労移行支援事業 （0310101159）
平成 26 年 6 月	障害者福祉サービス 就労継続支援 B 型事 業（0310101159）

主な活動

以下の事業を定款に定め、活動を行っている

1. 就労移行支援事業
職業訓練を中心とした就労支援サービスの提供
2. 就労継続支援事業
地域社会との連携による就労支援体制の確保
3. 社会参加推進事業
社会の変化に柔軟に対応した各種事業の提案と実施



支援方法・スタイル

【支援機関との連携】

20代 男性 大学卒 発達障害の疑い
支援開始

気が弱くおどおどしていることが多いがやさしい性格である。セミナー参加と並行しながら職場体験を実施。数回行い、企業の評価は高かったが、本人の評価は著しく低い。

支援機関との連携開始

発達障害支援センターと連携し、月 1 回のアウトリーチによる聞き取り・支援を始める。以下支援内容。

親が本人に対して強い言葉を投げかける。

支援：両親と連絡を取りたい旨を伝えしたが、極度に怯えていて拒否。何度か両親に連絡をしたい旨を伝えているうちに手紙を出すことについて了解を得る。その後発達障害者支援センターの担当者から手紙を出してもらい、両親と面談。今後の社会参加や就労のために障害者職業センターにて職業判定をしてもらうことになった。

職場実習における企業評価と本人評価の差について話し合う。支援：本人は仕事ができているとの企業評価を見ても、自分ができていないとこだわる。過去の失敗体験が積み重なっていて、自己有用感、自己肯定感が著しく低いいためセミナー参加や職場体験を今後も重ね、社会参加や就労に対する自信を付けてもらうことを継続する。

震災をキッカケに、貧困家庭の子どもや保護者が 排除されない社会をつくる

宮城県

NPO法人 アスイク

支援対象: 被災した子ども、及び経済的困窮世帯の子ども(主に中学生)、保護者。

支援方法: 居場所づくり・学習支援、相談支援、体験型プログラム等

スタッフ数: 常勤7名、非常勤16名、ボランティア130名

実施団体: NPO法人アスイク、仙台市、岩沼市等

代表者: 代表理事 大橋 雄介



住所: 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5-3-21 コーポ小松101

TEL: 022-781-5576 FAX: 022-781-5576

e-mail: info@asuiku.org

URL: http://asuiku.org

成り立ちと活動の全体像

NPO法人アスイクは、東日本大震災の直後に立ち上がった団体である。当時、学校がいつ再開できるか分からない状況だった。たとえ学校が再開しても、避難所で生活している子どもたちが学校に長期間通うことができない状況が危惧され、日常生活から取り残されていく子どもたちを生みださないために、4人のボランティアと避難所での学習サポート活動を開始した。

その後、仮設住宅でも学習サポートの場を通して、被災した子どもたちに寄り添い続けた。時間が経つにつれて、取り残されていく被災者は、元から生活に困窮していた家庭であり、震災はそれ以前から拡大していた貧困問題を浮き彫りにしていると気づく。そのような現状を社会に発信するため、被災された方々へのインタビュー調査を行ない、その結果を「3・11被災地子ども白書」として取りまとめ、明石書店より刊行。団体のミッションを、単に数年間被災者支援を行なって終わってしまうのではなく、「震災を契機として、貧困にあ

る子どもや保護者が排除されない社会を築くこと」に転換した。

貧困にある子どもたちを広く、長期的に支えていくために、2013年度から仙台市との協働による「低所得世帯の子どものための学習サポート事業」を開始。この事業では、生活保護世帯やひとり親世帯(児童扶養手当全額受給)の中学生を対象として、放課後の居場所づくり・学習サポート、体験型プログラムを提供するだけでなく、子どもが抱える問題の背景にある家庭環境や親子関係まで含めた包括的なサポート(相談支援・ソーシャルワーク)を実施している。

2013年度に仙台市太白区でモデル事業的に始まった上記事業は、翌2014年度には青葉区にも拡大。また、仙台市南方の岩沼市においても同様の事業を岩沼市との協働によって立ち上げている。

事業の特徴

貧困家庭が抱える問題は、多様で複雑である。当然、1団体がすべての問題を受け止められることはない。そのため、地域の多様な社会的資源と連

沿革

- 平成 23 年 3 月 東日本大震災直後に、任意団体として発足
- 平成 23 年 7 月 仙台市内の仮設住宅での学習サポートを開始
- 平成 23 年 12 月 明石書店より「3・11被災地子ども白書」を刊行
- 平成 25 年 3 月 厚生労働大臣より、東日本大震災の被災者支援活動の功績に対する感謝状
- 平成 26 年 6 月 みやぎ生活協同組合、パーソナルサポートセンターと3社共同体を結成し、仙台市との協働事業を開始
- 平成 26 年 8 月 岩沼市との協働による生活困窮者自立促進支援モデル事業を開始

主な活動

仮設住宅等での学習サポート(2011年4月～現在)

4市町9ヶ所の避難所で、避難生活を送る子どもたちのために、寄り添い型の学習サポートを実施。その他、仙台市内6ヶ所の仮設住宅、みなし仮設住宅で生活する子どもたちの受け皿として開設した1ヶ所の学習支援センターで、92人の子どもをサポート。

他地域のNPO、住民へのモデル・ノウハウ移転事業(2012年12月～現在)

宮古市、石巻市、栗原市等のNPO12団体に対して、民間企業と協働でeラーニングを活用した学習支援モデルを提供。

地方自治体との協働事業(2013年6月～現在)

仙台市、岩沼市との協働(委託契約)により、被災地の低所得世帯を対象とした学習支援・居場所づくり・相談支援事業を展開。仙台市では、太白区、青葉区で10ヶ所の会場を運営し、約170名の中学生が継続的に参加している。岩沼市では、1ヶ所を開設し、18名の中学生が参加。

調査情報発信事業(随時)

子どもの貧困研究の第一人者である阿部彩氏(国立社会保障・人口問題研究所部長)をアドバイザーに迎え、被災した子ども、保護者へのインタビュー調査をベースにした「3・11被災地子ども白書」を明石書店より刊行。

携体制を築くこと、地域づくりの視点が重要である。

このような考えから、就労支援などを専門的に手がける一般社団法人パーソナルサポートセンター、家計相談支援やフードバンクなどの資源を有するみやぎ生活協同組合と共同体を結成し、前述の協働事業を推進している。もちろん、それ以外も必要な行政機関、民間組織との協力関係を広げている。



(ボランティア研修会の様子)

事業の成果

2013年度に仙台市太白区で開始したモデル的事业では、一定の客観的な成果を挙げている。

82名の中学生が参加し、カバー率は約16.4%。延開催回数は337回だが、出席率は86.1%と高く、子どもたちにとって居心地のよい場所を提供することができた。一方、学力面でも、平均で英語が14.7点の増加、数学が9.2点の増加となり、明確な向上効果があった。中学3年生の進学率も100%である。

参加者の内面的な変化を測定するアンケートでは、約9割の子どもが「進学や将来の職業について前向きに考えるようになった」と回答。保護者についても、約8割が「スタッフとの面談によって悩みや問題が軽くなった」と回答した。これら以外にも多様な面から、肯定的な変化が現れている。事業の有効性が確認されたことで、当事業は生活困窮者自立支援法の施行に合わせ、規模を拡大していくことが決まっている。

居場所があるよ「新たな自分に出会う...」

秋田県

NPO 法人 親と子の総合支援センター

支援対象: 赤ちゃんから高齢者まで
支援方法: 3施設で対応
スタッフ数: 50名
実施団体: NPO法人親と子の総合支援センター

代表者: 松塚 智宏



住所: 〒014-0026 秋田県大仙市大曲丸の内町1-11-2
TEL: 0187-66-1106 FAX: 0187-66-1106
e-mail: biora@aqua.plala.or.jp

成り立ちと活動の全体像

急激な社会変動の中で人間関係に不安を感じいろいろな悩みを持ち、解決を模索している大人や若者子ども達の力になりたい。子どもも大人も健やかに暮らせる環境づくりをお手伝いしたいと行政の協力と指導を得て、平成21年「大仙親と子の総合支援センター」を開設、大仙市が開設した子育て

拠点、高齢者相談所「まるこのひろば」の運営を市から受託。平成25年、市より不登校の子どもや引きこもりの若者の居場所「大仙市子ども若者総合相談センター」の運営を受託。ワンストップ窓口として現在に至る。



子育て班親子の交流「鬼は外」

沿革

平成 21 年 1 月 NPO 法人
「大仙親と子の総合
支援センター」設立

平成 21 年 8 月 大仙市より
子育て支援拠点、高齢
者相談所「まるこのひ
ろば」の運営を受託

平成 24 年 4 月 大仙市より
「大仙市子ども若者総
合相談センター」の運
営を受託

現在に至る

主な活動

カウンセリング

子育て支援、子ども若者相談センター、高齢者相談者それぞれ3施設
で相談窓口を設置。直接面談をして無料相談も可能、無料電話相談も
可能。相談員の他、臨床心理士や精神保健福祉士の対応もあり。

社会参加支援活動

社会参加を目指す若者を対象に、各種トレーニング、企業見学や
職場体験ジョブトレ ニング、アサーショントレーニング等行うプロ
グラムを実施。

居場所支援

子育て支援...親子で自由に参加できる場所。

子ども若者支援...年間無休、朝9時～午後5時まで開所。自由に参加
できる場所。

高齢者支援...生きがい作りとしていろいろなイベント企画。

講座・セミナー

臨床心理士、精神保健福祉士、大学教授等の研修やセミナー、講演会。
相談会後のカンファレンス等実施。



高齢者班「生きがいつくり」



中学生が計画実施した「なべっこ」

お互いに助け合い、励まし合い、教養を高め、諸制度を活用しながらその母が健康で児童の心身ともに健やかに成育されるため明るい家庭を作り、母子福祉の推進を図る

秋田県

大潟村母子寡婦福祉会

支援対象: 1. ひとり親交流会

2. 高校受験に向けた中学生

支援方法: 1. ひとり親の親子が集い、悩みや情報交換をする交流会をおこなっている。

2. ひとり親家庭の子供へ学習支援。

スタッフ数: 2.5 名

実施団体: 大潟村母子寡婦福祉会

代表者: 斉藤 幸子

住所: 〒010-0441 秋田県南秋田郡大潟村
北1丁目3番地

TEL: 0185-45-2840 FAX: 0185-22-4081

e-mail: syakyo@ogata.or.jp

成り立ちと活動の全体像

日本第2の湖を干拓して誕生した大潟村。新生の大地に胸ふくらませ、家族とともに入植したのもつかの間、1人、2人、3人と病魔や自死により残された子育て真っ最中の女性が増え始め、「大潟村母子寡婦福祉会」が発足し、若い方にも親しみやすいようにと名称を「やまぶき会」としました。やまぶき会は、親睦グラウンドゴルフや研修会のほか、会独自にひとり親児童の入学卒業激励会を開催し、会から少しのお祝い金を贈り、手作りのごちそうを持ち寄り、励ましています。

また、やまぶき会会員のみならず、ひとり親家庭の親子で交流会を開催し、そこで出た要望を受けて平成26年度より中学生を対象に学習支援を始めました。村内の方で教員だった方に協力していただき、勉強を教えてもらいました。

会員同士励まし合い、地域の方の御協力に大変感謝しています。

研修旅行

平成24年、やまぶき会の30周年を祝う会を開催しました。発足当時は子育て真っ最中だった会員も、今では孫を持つような年齢となりました。30年経った今も、同じ苦労を共にした仲間同士、動けるうちに！歩けるうちに！と研修旅行をおこなっています。数年に1度の企画ということと、女性同士なので会話も絶えることなく賑やかに、みんなが集まると気持ちはまだまだ30年前のあの頃のままで楽しんでいます



沿革

昭和 58 年 3 月 大瀧村母子寡婦福祉会

昭和 58 年 3 月 名称: やまぶき会とする

平成 15 年 7 月 やまぶき会 20 周年記念旅行

平成 19 年 10 月 ひとり親家庭勉強会実施

平成 24 年 11 月 やまぶき会 30 周年を祝う会

平成 26 年 7 月 ひとり親家庭の子供へ学習支援

主な活動

- ・ 早苗振りの開催（グラウンドゴルフで親睦）
- ・ 社会福祉協議会開催の福祉運動会へのお手伝い
- ・ ひとり親家庭交流会（年 2 回）
- ・ ひとり親家庭親睦宿泊研修
- ・ ひとり親家庭の子供へ学習支援（夏休み・冬休み及び 1 月）
- ・ 赤い羽根共同募金街頭募金活動
- ・ 忘年会
- ・ 新年会

ひとり親交流会・ひとり親家庭の子供へ学習支援

やまぶき会の会員ではなく、地域にはひとり親家庭が増えています。そこで、平成 19 年、ひとり親に集まっていたいただき、やまぶき会の方からいろいろな経験談をお話していただきました。2 回目は制度やひとり親家庭・自立支援センターの役割について勉強会をおこないました。それからは、年に 1~2 回、「若葉会」と名付けてひとり親の親子で集まり、レクリエーションをしたり悩み事の相

談や情報交換をおこなっています。

その集まりで出ました、高校受験を前にして塾に通わせる費用がとても心配という意見を受けて、ボランティアで勉強を教えてくれる方がいないか探したところ、タイミング良く、昨年まで中学校教員だった方がいるとのことで、お願いし、平成 26 年度の夏休みと冬休み及び 1 月の間、週 1 回で勉強会を開催することができました



当法人は、広く一般の方々に対して、多様化した社会が必要とする子育て支援事業を行い、子育てと仕事の両立をさせる生活基盤の構築に寄与することを目的として活動に取り組んでいます。

山形県

特定非営利活動法人にこっと

支援対象: ひとり親家庭

支援方法: 交流会 / 講習会 / 学習支援事業

スタッフ数: 10 名

実施団体: 特定非営利活動法人にこっと

代表者: 片桐 晃子



住所: 〒998-0045 山形県酒田市二番町 7 - 8
TEL: 0234-23-6330 FAX: 0234-25-020
e-mail: katagiri@needs.jp
URL: <http://nicottohir.exblog.jp/>

ひとり親家庭交流会

ひとり親家庭の悩みや孤立感の緩和をはかるために交流会の場・同じ境遇での親同士の情報交換の機会を提供。



大学生とひとり親家庭の子どもとの交流

地域の大学生とひとり親(母子)家庭の子どもが交流できる機会を提供。

ある日は、母親たちがひとり親家庭自立支援員による講習会に参加している間に、大学生と子どもと一緒に遊び簡単な昼食を作った。

家庭には存在しない成人男性と触れ合う事によって、男の子は思いっきり身体を動かす遊びや同性同士ならではの共感を楽しみ、女の子は日常生活での接点の少なさから生じる苦手意識の解消のキッカケの場として実施した。



沿革

平成 14 年 4 月

保育サービス事業開始

平成 16 年 7 月

一時保育所開設

法人として、ひとり親家庭支援開始

平成 16 年 9 月

NPO法人格取得

平成 17 年 8 月

市委託つどいの広場開設

同施設内にて一時保育所開設

平成 23 年 4 月～平成 26 年 2 月

県委託 / ひとり親家庭交流促進事業

平成 26 年 3 月

県委託 / ひとり親家庭学習・交流事業

主な活動

ひとり親家庭交流会

ひとり親家庭の親子を対象に、月 1～2 回程度の交流会を実施。日頃の生活上の悩みや情報交換などを行える場を提供。

また、ひとり親家庭自立支援員などの有識者を講師に迎えての講習会や相談会なども開催した。

ひとり親家庭学習支援事業

ひとり親家庭の子どもを対象に、主に長期休み期間中に教員退職者・教員資格保有者・学生を講師にマンツーマンでの学習会を開催。

ひとり親家庭学習支援事業

ひとり親の児童等に対し学習支援を実施することにより、ひとり親家庭の児童等の学習の充実を図る。



見つけよう！新たな自分！働きたい若者を応援します！ ～あなたをサポート 応援ステーション～

福島県

厚生労働省認定 会津地域若者サポートステーション

支援対象: 15～39歳の若者

支援方法: 相談支援、ビジネスマナーや就職支援(履歴書の書き方、面接対策等)、PC等各種講座、職場体験等、幅広い支援プログラムをご用意しております。

スタッフ数: 9名

実施団体: 株式会社みとみ

代表者: 代表取締役 三富 俊彦



住所: 〒965-0005 福島県会津若松市一箕町亀賀藤原52番地
ヨークベニマル一箕町店隣接テナント
TEL: 0242-32-0011 FAX: 0242-37-0301
e-mail: info@job-sapo.com

会津地域若者サポートステーション概要

会津地域若者サポートステーション(通称 会津サポステ)は、厚生労働省の認定を受け、株式会社みとみが運営を行っております。就職等、自立に向けた支援を行う総合相談窓口であり、対象は15～39歳の若者とそのご家族の方です。

働きたい若者、より安定した仕事に就きたい若者などに、前向きに就労へと向かっていくサポートをしています。

平成25年度は、207名にご登録いただき、81名の進路決定者を輩出、1899件の相談実績があります。通常の支援メニューとしては、キャリアカウンセリングをはじめとした相談支援の他、ビジネスマナーや就職支援(応募書類対策、面接対策等)、PC等の各種講座、職場体験等、様々な支援プログラムを実施しています。その他、ボランティア活動や職業人講話、適職・適性診断、若者の自立支援に関するセミナーなども行います。

プログラムその1 猪苗代湖清掃活動



会津サポステでは毎年夏季に猪苗代湖の清掃を目的としたボランティア活動を実施しています。平成26年度は毎週2日、早朝に集合して猪苗代湖の各浜でゴミ拾いをしました。地元の自然環境を守りたい方、生活リズムの改善をしたい方、自分のペースで何か活動したい方、猪苗代湖の朝の心地よい空気を味わいたい方など、様々な目的でたくさんの方が参加しました。まだ暑くなりきらない夏の心地よい朝、湖岸をゆ

沿革

- 平成 24 年 会津若松市より「若年者Uターン支援事業」を受託する。
- 平成 25 年 厚生労働省より「地域若者サポートステーション事業」の認定を受ける。
- 平成 25 年 福島県より「若者自立総合支援事業」を受託する。
- 平成 25 年 会津若松市より「若年者Uターン支援事業」を受託する。
- 平成 26 年 厚生労働省より「地域若者サポートステーション事業」の認定を受ける。
- 平成 26 年 福島県より「若者自立総合支援事業」を受託する。
- 平成 26 年 会津若松市より「若年者Uターン支援事業」を受託する。

主な活動

キャリアカウンセリング

専門のスタッフが就労に関する相談をお受けし、目標が達成できるような適切な支援メニューを個別に作成します。

ビジネスマナー講座

身だしなみや電話対応、訪問時・来客時のマナー等、社会に出てすぐに役立つマナーを学びます。

就職支援講座

面接で効果的に伝えるコツや応募書類作成の基本、自分の強みを見つけて自己PRで伝える準備等について、実践を交えながら学びます。

職場体験（ジョブトレーニング）

実際に働く現場の雰囲気を感じ、企業の中に入ってお仕事を体験することができます。お仕事選びのヒントとしてもおすすめです。

ったりと自分のペースでごみを拾いました。活動中は参加者同士でお話をしたり、協力し合ってゴミを回収したり、終わった後には浜辺でゆったり過ごしたりしました。ゴミ拾いをし終わった後には毎回集合写真を撮りました。写真の中で参加者がいつも晴れやかな表情をしていたことがとても印象的でした。

参加者の方からは、「清掃活動に参加することで生活リズムが改善された」、「他の方とのコミュニケーションのきっかけになった」などの嬉しい声をいただきました。

プログラムその2 職場体験（ジョブトレーニング）

会津サポステでは、製造業や小売業、サービス業など様々な企業でお仕事の体験をすることができます。

未経験の仕事にチャレンジしたい方が職場体験に参加してお仕事選びのヒントにしたり、職業経験のない方が働くことへのイメージを深めるために参加したり等、実際に体験することで自分自身の生

き方や働き方について見つめ直す機会を提供しています。

参加者の中には苦手意識の克服を目指す方もいます。コミュニケーションに自信のなかった方が、抵抗のあった接客業に挑戦したことがありました。親切・丁寧な指導や受け入れ企業の方のあたたかい対応のおかげで、職場体験後に参加者から「接客業へのイメージが変わり、抵抗がなくなった」という言葉をいただくことができました。

他にも、職場体験中に企業側から「ウチで働かないか」と声をかけてもらえ、就労に対する抵抗が軽くなったという方もいます。



みんながつながれば、みんなが元気になる

秋田県

NPO 法人 KOU

支援対象: 動にくさをかかえた若者とその家族

支援方法: 学籍を持つ者は休学中のもの、通信制で学ぶものと両者があり、いずれも、動きにくい状態の者が多い

スタッフ数: 正 2 名、非正 7 名、ボランティア 5 名

実施団体: NPO 法人 KOU

代表者: 理事長大屋みはる



住所: 〒010-0804 秋田市外旭川人幡田
2-1-6

TEL: 018-868-3854 FAX: 018-868-3854

e-mail: mihanu100@yahoo.co.jp

URL: [http:// npkou.web.fc2.com](http://npkou.web.fc2.com)

成り立ちと活動の全体像

居場所づくり

動にくさをかかえた子供や若者の支援

沿革

- 平成 10 年 4 月 親の会、子育てに悩む保護者支援
- 平成 14 年 4 月 フリースクール「KOU」本人対応スタート
- 平成 17 年 5 月 法人化
- 平成 17 年 5 月 県立フリースクール「スペース・イオ」の運営協力
- 平成 19 年 2 年間「効果的な訪問支援の在り方」研究
- 平成 20 年 5 月 若者サポートステーションの運営協力
- 平成 22 年 4 月 若者サポートステーションの受託

主な活動

- ・動にくさをかかえる子供若者の支援を行っている。
- ・保護者の相談もつけ、家族支援を行っている。
- ・必要な場所へ出かけての支援活動も行います。
- ・県内各地に居場所を作り、若者支援ばかりではなく、地域全体を支援していこうと思っている。
- ・支援されていた人も支援していた人になり地域は活性化する。
- ・困っているすべての人から、お金を集めず、公的な事業の受託と、ボランティア養成により支援活動を行っている。
- ・支援された人が次の支援者となっていく。

さまざまなスキルアップを目的とした活動

手芸・イラスト・パソコン・調理・運動・音楽
ボランティア体験活動、各種検定試験のサポート

公益財団法人岩手育英奨学会

支援対象: 高校生(在籍)
支援方法: 奨学金の貸与
スタッフ数: 3名
実施団体: 公益財団法人岩手育英奨学会
代表者: 会長 原 久雄

住所: 〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 10-1
TEL: 019-623-2050 FAX: 019-628-2050
e-mail: zityou-syougaku@able.ocn.ne.jp
URL: <http://www.iwate21.net/ikuei-syougaku/>

成り立ちと活動の全体像

岩手県に住所を有する者の子女で、有能な素質を有しながら経済的理由により高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)及び専修学校の高等課程の修学が困難

な者に対し、学資の貸与その他育英奨学上必要な業務を行い、もって社会有用の人材育成に寄与することを目的とする。

沿革

昭和 42 年 7 月 財団法人岩手育英奨学会設立
平成 26 年 8 月 公益財団法人へ移行

主な活動

奨学金の貸与

NPO 法人いわて生活者サポートセンター これからのくらし仕事支援室

支援対象: 生活困窮者(全て)
支援方法: 各種窓口の動向、Ap探し
スタッフ数: 8名
実施団体: NPO 法人いわて生活者サポートセンター
代表者: 石橋乙秀

住所: 〒020-0000 盛岡市菜園 1-12-18
TEL: 019-626-1215 FAX: 019-625-1545
e-mail: ps3@korekura.jp

成り立ちと活動の全体像

子供の貧困に限らず生活困窮者全体に対しまんべんなく伴走型の支援を行っています。

沿革

平成 21 年 4 月 暮らしとお金の安心支援事業開始
平成 23 年 4 月 パーソナルサポート事業開始

主な活動

暮らしとお金の安心支援事業開始
パーソナルサポート事業開始

